

# 落石対策のメッカ「県道 320 号久礼須崎線」

(株)第一コンサルタンツ 右城 猛

## 1. まえがき

中土佐町久礼から土佐湾の海岸線に沿って須崎市安和に至る道路がある。県道 320 号久礼須崎線である。別名「断崖のみち」。「高知国道 56 号落石事件」の舞台として有名な道路である。山間部を通る現在の国道 56 号が完成する昭和 44 年まで国道として使われていた。

「高知国道 56 号落石事件」とは、昭和 38 年に発生した落石死亡事故である。道路管理者の瑕疵責任が問われ、最高裁で国と高知県に賠償責任の判決が言い渡された。この事件をきっかけにして、わが国で落石対策が本格的に行われるようになったのである。

その走りとなったのが、昭和 40 年頃に施工されたミニポケット式ロックネットである。落石防護工の標準的工法であるポケット式落石防護ネットのルーツといえるもので、当時、須崎土木事務所の技師をされていた田中忠夫氏によって考案されたのである。金網は腐蝕して原形を留めていないが、現在も県道 320 号に遺されている。

高知県道 320 号久礼須崎線は落石対策の発祥の地、落石対策のメッカと呼ぶにふさわしい路線なのである。

## 2. 県道 320 号の落石防護工

県道 320 号は、釣りや海水浴、ツーリングなどのレジャーを楽しむ人々には利用されているが、一般車両の通行は少ない。しかしながら、青木崎の近くに広域ごみ処理施設「高幡東部清掃組合」があり、ここに須崎市、中土佐町、津野町（旧葉山村）、大野見村から出されるごみを収集運搬しなければならないため、高知県の重要路線として位置づけられている。

こうしたことから、ポケット式ロックネット、ロックシェッド、ロックキーパー、片持ち式ロックキーパー、バリアー、S.P.C.ウォール工法、のり砕工、ストーンガード、マイティーネット、岩盤接着工法などありとあらゆる落石対策工が施工されている。



ありとあらゆる落石対策工が施工されている高知県道 320 号久礼須崎線は落石対策の見本市。



高知県の土木技師・田中忠夫氏が考案したポケット式ロックネット。金網は腐蝕してなくなった所もある。



近年に施工されたポケット式ロックネット



特殊金網を法面に密着して張り，浮石をpushさえ込み落石を防止するマイティーネット。ネット内には自然の種子が付き，緑化されている。



片持ち式ロックキーパー。サンドクッションを敷いたプレキャストコンクリート製の柵をグラウンドアンカーで地山に固定している。



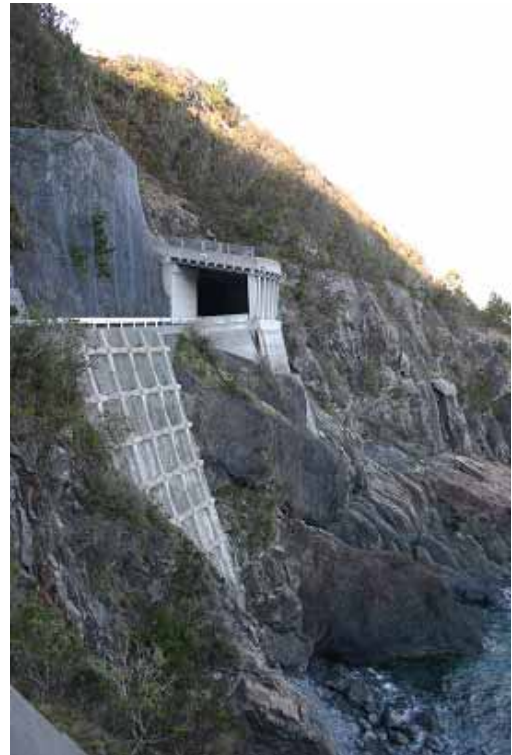
コンクリート法枠工法



バリヤーと呼ばれるプレキャストコンクリート製の待ち受け式落石防護柵。



S.P.C.ウォール工法。壁面にプレキャスト化粧板を使用し，地山との間には気泡混合軽量盛土材であるエアームタルが施工されている。



断崖に施工された PC ロックシェッドとコンクリート製法枠



日本サミコン(株)製の PC ロックシェッド



県道 320 号は、毎年 5 月に開催されている「駅からウォーク・土佐湾パノラマウォークと鰹乃国」というウォーキングのコースになっている。



ロックキーパー。サンドクッションを敷いたプレキャストコンクリート製の柵式落石防護工。



忍び返しが付いたストーンガード



ストーンガードと谷止工。谷止工は溪流に堆積している不安定な土砂の流出を防ぐ役割をする。



ストーンガードの基礎がグラウンドアンカーで斜面に固定されている。ドイツでライン川クルーズをした際に、ローレイと呼ばれる崖で見かけた工法と同じである。



土佐十景の一つ双名島（ふたなじま）。久礼湾の中ほどある。手前が観音島，奥の島が弁天島。



観音島は、岩盤接着工法で補強されている。



高知県道 320 号に施工されている落石対策工



青い海と青い空を眺めてスケッチをとっている  
青柳裕介の姿の石像

### 3. 見学会のコースとして最適

県道 320 号は、落石対策技術を学ぶための見学コースとして最高である。講釈をたれたり、「ワイワイ・ガヤガヤ」言ったりしながらみんなで歩けばきっと楽しい見学会になると思う。

須崎市安和から中土佐町久礼までの道のりは約 10km。この間に見られる太平洋のパノラマの美しさは天下絶品である。

久礼に到着すると、久礼を舞台にした漫画「土佐の一本釣り」の作者・故青柳裕介の石像が待っている。直ぐ傍には大正町市場があり、取れたての魚介類や新鮮な野菜を売っている。

大正町市場では生ビールを飲みながら焼きたての「鰹の薫焼きタタキ」を食べることもできる。



大正町市場



大正町市場の鰹の薫焼きタタキ

夜は「黒潮本陣」に泊まり、露天風呂に入って土佐湾を眺めながら疲れを癒した後、新鮮な海と山の幸を使った本陣料理で宴会をする。いつかはこの企画を実現させたいと考えている。

(2009年5月30日記)